

80th Anniversary



株主通信

第117期 報告書

2013.4.1>>>>2014.3.31

東洋鋼鈹株式会社

鉄とともに 歩み続けて

80

周年

1934



下松工場最初の棟上げ

1944年(昭和19年)

- 本社を東京都に移転。

1949年(昭和24年)

- 株式を東京証券取引所に上場。

1977年(昭和52年)

- 下松工場研究所を技術研究所に改組。

1977



1930

1940

1950

1960

1970

1934年(昭和9年)

- 創立総会開催。本社を大阪に設置。工場を下松に設置。

1935年(昭和10年)

- 山口県下松工場において操業開始。海外からの輸入に大部分を頼っていた「ぶりき」の生産開始。

1935



ぶりき缶

1955年(昭和30年)

- 高度経済成長の下での需要増に対応するため No.1電気錫めっきライン設置。連続的な錫めっき処理が可能に。

1958年(昭和33年)

- 圧延技術を生かしエッチング性、板圧精度、形状が優れた「冷延鋼板」誕生。ブラウン管テレビのシャドウマスキ材(2013年生産終了)として採用される。

1959年(昭和34年)

- 塩ビを亜鉛めっき鋼板に積層、実用化した樹脂化粧鋼板「ビニトップ」誕生。

1955



No.1電気錫めっきライン

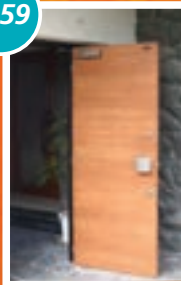
1961年(昭和36年)

- ぶりきに代わる製缶用材料として、世界で初めて商品化に成功した「ティンフリースチール」誕生。

1967年(昭和42年)

- 鉄に対し優れた防錆効果を持った亜鉛をもとに、さらに耐食性を向上させた「電気亜鉛めっき鋼板」誕生。

1959



玄関ドア
(ビニトップ)

1961



180缶(ティンフリースチール)

1934年4月11日、民間初のぶりきメーカーとして誕生した当社は、お蔭様で80周年を迎えました。ぶりき製造で誕生した会社ですが、歴史を重ねる中でその技術を発展させ、非鉄や樹脂などの分野へも活躍の場を広げてきました。“鉄”とともに歩み続けてきた東洋鋼板は、今日ではその伝統で培った、圧延、表面処理、ラミネートなどの技術をもとに“鉄”から“非鉄”や“樹脂”へと自らのフィールドを拡大しています。

1997年(平成9年)

- 磁気ディスク用アルミ基板の海外需要に応えるため、マレーシアにTOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN. BHD.を設立。
- 表面活性化常温接合法を世界で初めて確立した、高機能異種金属積層材「ファインクラッド」誕生。

1997



TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD.



半導体パッケージ部品 (ファインクラッド)

2010年(平成22年)

- 湖南東洋利徳材料科技有限公司を設立。
- 江蘇東洋鋼板新材料科技有限公司を設立。
- 2013年(平成25年) グループブランドネーム「TK WORKS」を設定。

1980

1990

2000

2010

For Future

1985年(昭和60年)

- 環境負荷軽減、塗装のしやすさ、食品腐食抑制および内容物保護、衛生性をすべて兼ね備えた「ラミネート鋼板」誕生。
- 当社の研摩およびめっき処理技術を、他素材であるアルミに応用した「磁気ディスク用アルミ基板」誕生。

1986年(昭和61年)

- 電池分野の需要拡大を見越し、圧延、熱処理、表面処理技術を活用した「ニッケルめっき鋼板」誕生。

1985



磁気ディスク用アルミ基板

1986



2004



ハイブリッドカー用電池部品(ニッケルめっき鋼板) DNAチップ

2007



左/光学用機能フィルム 右/SetsuDenミラー (銀鏡めっき金属板)

2000年(平成12年)

- 大河内記念賞受賞「高品質・低コスト・低環境負荷金属缶製造技術」開発と実用化。

2001年(平成13年)

- ラミネートフィルムの内製化を目指し「ファインキャストフィルム」誕生。

2004年(平成16年)

- 世界で初めて開発した気相合成法により、バイオチップ用途基板「DNAチップ」誕生。

2007年(平成19年)

- 缶用、建材用途フィルムの製膜技術をもとに、光学用途に可能性を見出した「光学用機能フィルム」誕生。

- 金属板への銀めっき処理を可能にした「銀鏡めっき金属板」誕生。

2009年(平成21年)

- 中国において鋼板関連商品の拡販や新たな事業展開の拠点確立、アフターサービスの強化を目的とし、上海東洋鋼板商貿有限公司を設立。



新体制の下、中期経営計画は

Q 社長就任の抱負をお聞かせください。

A 東洋鋼鈹のグローバル化を実現するため全力を尽くします。

このたび代表取締役社長に就任いたしました隅田博彦と申します。大学卒業後、東洋鋼鈹で10年ほど仕事をした後、商社に移って情報システムや新規事業の立ち上げなどを幅広く手がけ、3年前に当社に戻ってまいりました。その後は経営企画全般に携わり、現在の中期経営計画「TK WORKS Beginning」の策定や、トルコでの合併事業などを手がけてきました。当社は今、真のグローバル化に向けて大きな殻を破らなければならない時期にきています。東洋鋼鈹という歴史ある企業を、グローバル企業としての新たなステージに引き上げるため、全力を尽くしてまいります。

Q 2014年3月期の経営成績についてご解説ください。

A 鋼板関連事業の回復で大幅な増益となりました。

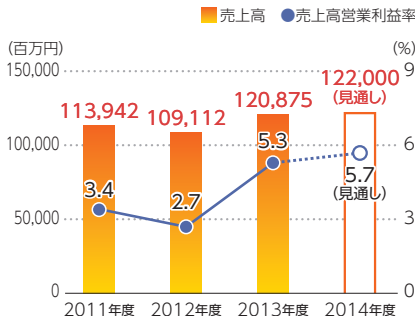
新たな中期経営計画「TK WORKS Beginning」の初年度と

代表取締役社長

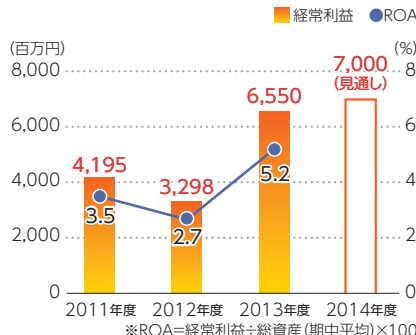
隅田博彦

第117期報告書をお届けするにあたり、代表取締役社長 隅田博彦へのインタビューを通して当グループの現状と今後の動向をご説明いたします。

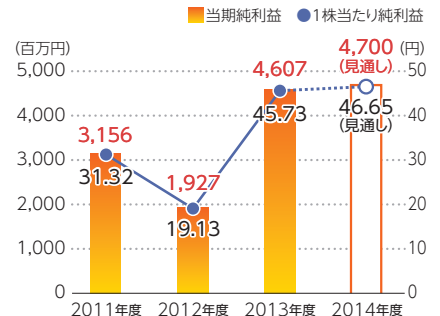
連結売上高／売上高営業利益率



連結経常利益／ROA



連結当期純利益／1株当たり純利益



順調に進行 トルコ工場の建設も正式決定

なった当期は、国内鉄鋼市場に持ち直しの動きが見られるなどの追い風もあり、連結経営成績は売上高が1,208億75百万円(前期比10.8%増)、営業利益が64億54百万円(前期比117.6%増)、経常利益が65億50百万円(前期比98.6%増)、当期純利益が46億7百万円(前期比139.0%増)と、増収増益を達成することができました。前期の減収減益の要因となってしまう鋼板関連事業では、缶用材料の国内需要の低迷が続いているものの、自動車・産業機械部品や建築・家電向けなどで需要が伸長し、大幅な増益となりました。また、成長の牽引役と期待する機能材料関連事業は、引き続き堅調な伸びを続けています。

Q 中期経営計画の状況と、次期の事業計画についてお聞かせください。

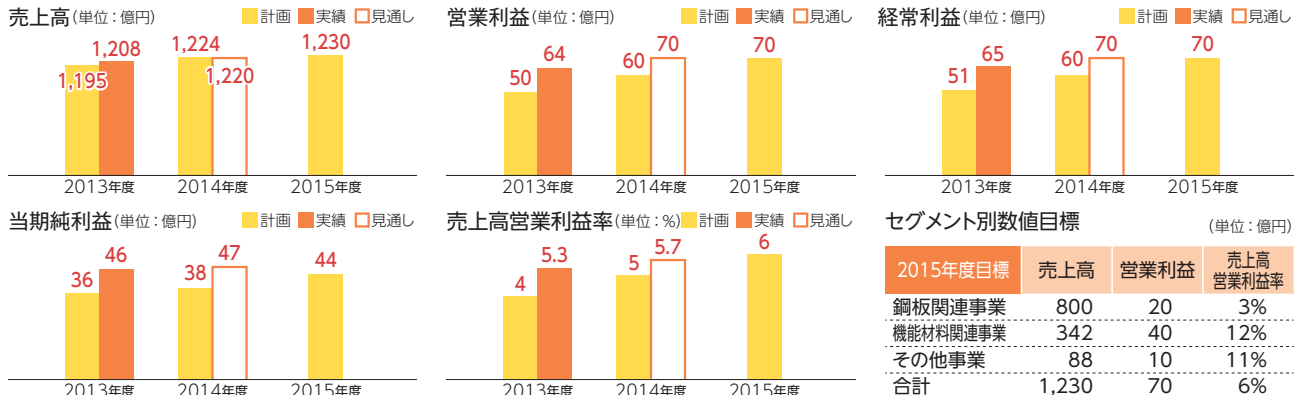
A トルコ工場の建設が正式決定。DNAチップも事業化へ。

「TK WORKS Beginning」は、成長分野である機能材料関連事業を牽引役として、鋼板関連事業の収益基盤強化と海外

展開、DNAチップなど新規事業の育成を図るという3ヶ年計画です。収益計画については当期も目標を達成したとおり順調ですし、各事業の戦略も今のところ計画通りに進んでいます。直近でのとくに大きな成果は、鋼板関連事業の海外展開を本格化するための第一歩として、トルコ共和国での合弁工場建設を決定したことです(詳細はp.6)。2016年には表面処理鋼板の生産を開始し、将来的には南ヨーロッパや北アフリカ、中東まで製品を供給していきたいと考えています。新規事業として期待しているDNAチップに関しても、許認可などが絡むため事業化にやや時間を要していますが、ぜひご期待いただければと存じます。

次期も事業環境に大きな変化はないと考えており、引き続き「TK WORKS Beginning」の諸施策に取り組む中で成功事例を数多く積み上げ、着実な成長を実現したいと考えています。鋼板関連事業では新たな需要開拓とトルコ工場の建設などに引き続き取り組み、機能材料関連事業では、顧客からの品質要求が高まる中で歩留まりの改善を急がねばならないと考えて

TK WORKS Beginning 3ヶ年損益目標(連結)



Top Interview

います。このほか、北米での生産拠点開設なども将来的には検討したいと考えており、その事前調査にも乗り出す考えです。連結業績については、売上高1,220億円(前期比0.9%増)、営業利益70億円(前期比8.5%増)、経常利益70億円(前期比6.9%増)、当期純利益47億円(前期比2.0%増)と、引き続き増収増益を予想しています。



Q 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

A 従業員が誇りを持てる会社、真に自立できる会社を目指します。

当期末の配当金につきましては、利益水準を勘案し、前期末比2円増配の1株当たり6円とさせていただきます。中間配当4円と合わせ、年間配当金は前期比2円増の10円となります。次期につきましては、中間と期末でそれぞれ5円ずつの、1株当たり10円の配当を計画しております。

田中前社長が掲げられた「TK WORKS Beginning」の初年度は無事、当初の目標を達成して終了しました。この計画を引き継いだ私の当面の責務は、計画に掲げられた様々な課題を着実に遂行し、収益目標などを達成していくこととなります。それとともに私の企業人生の集大成として、東洋鋼鈹という会社を、従業員たちが誇れる企業、自らの力だけで勝負できる、真に自立した企業にしていくことに挑みたいと考えています。

株主をはじめステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

TK WORKS Beginning 事業戦略

事業戦略

既存事業の
基盤強化

グローバル市場への
積極的参入

新規事業の
創出

鋼板関連事業

- 生産プロセスの改革による更なる原価率の低減
- マーケティング活動を強化し、海外市場を積極的に開拓
- 固有技術の集積化を図り、新規製品を具現化

各セグメント別の戦略

機能材料関連事業

磁気ディスク事業

- 省プロセス化技術開発による生産量拡大と原価率低減
- 顧客との戦略的アライアンス構築による市場シェア拡大

フィルム事業

- ディスプレイ向け光学フィルム事業の拡大
- フィルム高付加価値化による事業領域拡大

その他事業

機械事業

- 新エネルギー関連分野への新規展開
- エンジニアリング事業の立上げ

表面処理鋼板製造工場の建設

当社は、トルコ共和国に
表面処理鋼板製造工場を建設することを
決定しました。

当社は、2012年4月、トルコで製鉄事業を営むトスヤル社との間に合弁会社トスヤル トーヨー社を設立し、市場調査・事業性調査等を進めてまいりました。その結果、現在経済発展の著しいトルコにおいては、今後、冷延鋼板、表面処理鋼板の需要の増加により市場の拡大が見込まれることから、この度、トスヤル トーヨー社による製造工場建設を決定しました。当社はこれまで国内の工場(山口県下松市)を主要な生産拠点としてまいりましたが、本工場建設を鋼板関連事業のグローバル展開の足がかりとし、海外事業を積極的に推進してまいります。



新工場の概要

生産品目	冷延鋼板、錫めっき鋼板、 溶融亜鉛めっき鋼板、塗装鋼板
生産能力	73万t/年
主要設備	酸洗/冷延、焼鈍、電気錫めっき、 溶融亜鉛めっき、塗装等
投資額	約400百万USドル
立地	トルコ共和国オスマニエ県 オスマニエ工業団地
稼働開始時期	2016年(予定)

トスヤル トーヨー社の概要

所在地	トルコ共和国イスタンブール市
代表者	スハット コルクマツ
事業内容	冷延鋼板および表面処理鋼板の 製造・販売
設立	2012年4月
出資比率	当社49%、トスヤル社51%



当期のポイント

POINT

- **売上高** 120,875百万円
(前期比 10.8%増)
- **営業利益** 6,454百万円
(前期比 117.6%増)
- **経常利益** 6,550百万円
(前期比 98.6%増)
- **当期純利益** 4,607百万円
(前期比 139.0%増)

POINT ① 鋼板関連事業は
自動車・建築関連が好調に推移し増収増益。

POINT ② 機能材料関連事業は
旺盛な需要が続き増収増益。

POINT ③ その他事業全体としては増収増益。

セグメント情報

SEGMENT INFORMATION

鋼板関連事業



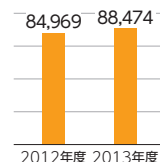
事業内容

缶用材料、電気・電子部品、自動車・産業機械部品、建築・家電向け材料の製造および販売

事業の概況

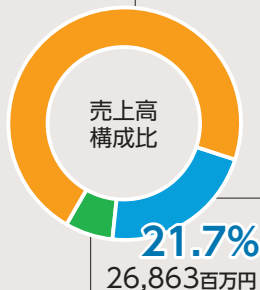
- 缶用材料は、主力の飲料缶材が缶コーヒーの販売不振の影響を受けて低迷。
- 電気・電子部品向けは、民生用電池用途の落ち込みが響く。
- 自動車・産業機械部品向けは、ベアリングシール用途やガスケット用途などが好調に推移。
- 建築・家電向けは、ユニットバス内装材や屋根防水用途などの外装材が需要の好調を受けて増加。

売上高
(単位:百万円)



71.7%

88,474百万円



売上高
構成比

21.7%

26,863百万円

6.6%

8,128百万円

なお、各事業の売上高は事業間の取引による金額を含んでおります。

機能材料関連事業



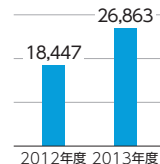
事業内容

磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルムの製造および販売

事業の概況

- 磁気ディスク用アルミ基板は、データセンターなどで使用される大容量ストレージ用途で旺盛な需要が続く。
- 光学用機能フィルムは、フラットパネルディスプレイ関連の市場において着実に浸透。

売上高
(単位:百万円)



その他事業



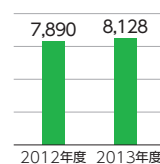
事業内容

梱包資材用帯鋼、機械器具、硬質合金の製造および販売

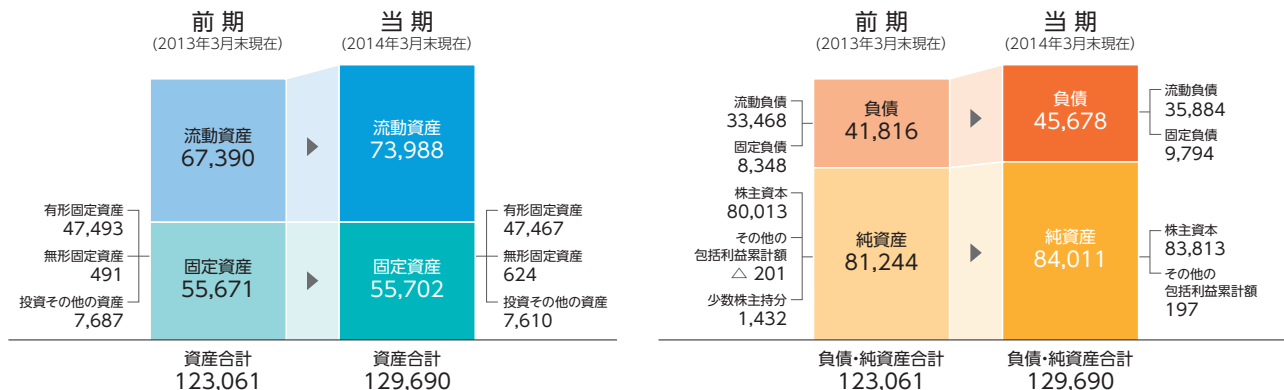
事業の概況

- 梱包資材用帯鋼は、鉄鋼市況の好転に伴い好調に推移。
- コイル結束装置などの機械器具は、装置本体の販売数量が減少。
- 硬質合金は、射出成形機部品の販売数量が前期並みに推移。プラスチック金型の需要も好調。

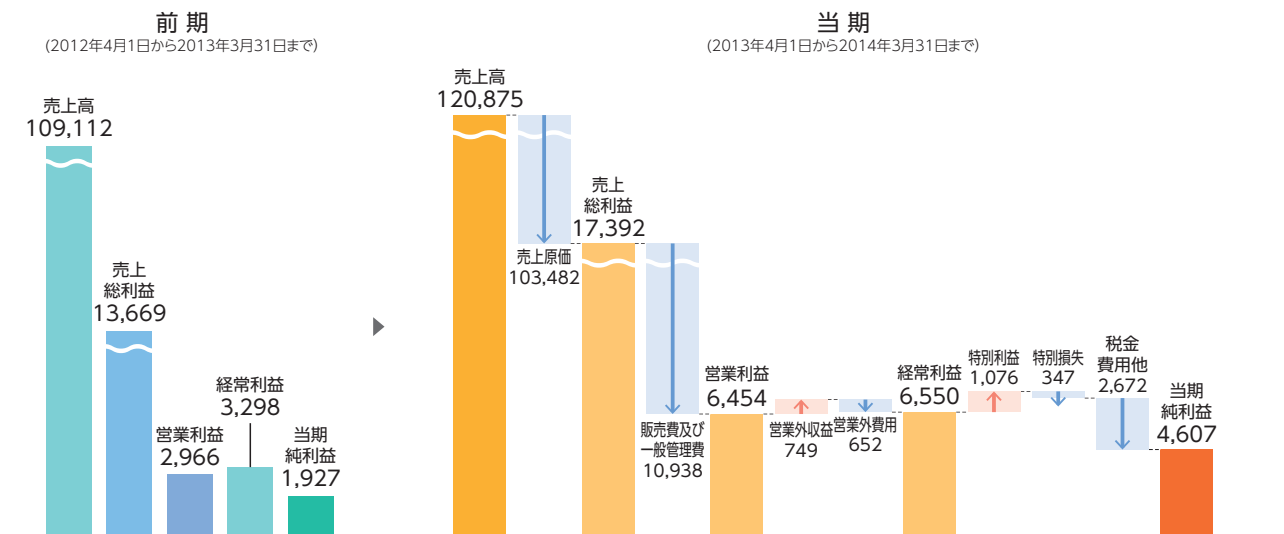
売上高
(単位:百万円)



財務状況 (単位: 百万円)



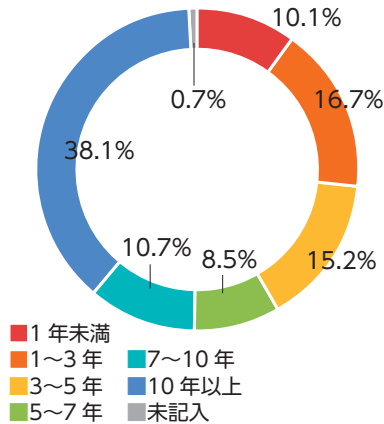
経営成績 (単位: 百万円)



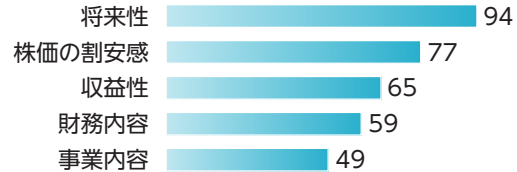
株主さまアンケート結果ご報告

第117期中間報告書において株主の皆さまにアンケートをお願いしましたところ、267名の方からご回答いただきました。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。一部ではございますが、アンケート結果を紹介させていただきます。

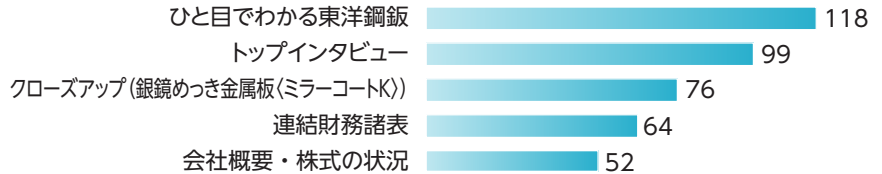
● 当社株式の保有年数



● 当社の株式を購入された理由はなんですか? (複数回答可)



● 第117期中間報告書で興味を持った記事はどれでしょうか? (複数回答可)



皆さまのご意見をご紹介

- 鉄から非鉄・樹脂へと業務を拡大されており好ましいことです。一層の拡大に努めて欲しいです。
- 当面の新中期経営計画の達成など今後の限りなき御発展を期待します。
- しっかりとした理念を持って経営されていると思います。技術力を生かしますますご発展されますよう祈念いたします。
- 独身寮など社員を大切にする姿勢に好感を持ちます。
- IRが充実してきていると感じます。今後とも力を入れて頂きたいと思います。
- 技術力のある堅実なメーカーとして期待しており、グローバルな技術を一層高めて欲しいです。
- ミラーコートKは節電の世の中での期待の星ではないでしょうか。幅広い場所での普及に期待しています。
- 今後もアンケートを通じて株主とのコミュニケーションを深めていただけますと幸いです。
- これからのますますの発展を期待するとともに、今後、100年200年と社会に貢献していただきたいと思います。
- 株主価値の向上を宜しく願っています。
- 企業説明会の開催を希望します。

会社概要／株式の状況

CORPORATE PROFILE & STOCK INFORMATION

(2014年3月31日現在)

会社の概況

商号 東洋鋼鋳株式会社
 本社 東京都千代田区四番町2番地12
 設立 1934年4月11日
 資本金 50億4,000万円
 従業員数 2,153名(連結)
 事業所 本社(東京都)、大阪支店、仙台営業所、名古屋営業所、
 広島営業所、福岡営業所、技術研究所(山口県下松市)、
 下松事業所(山口県下松市)

役員 (2014年6月25日現在)

取締役会長	田中厚夫	専務執行役員	坂本信夫
代表取締役社長	隅田博彦	執行役員	浪岡貞之
取締役専務執行役員	吉武潤一郎	執行役員	田辺敏幸
取締役常務執行役員	宮地正文	執行役員	藤井孝司
取締役	林芳郎	執行役員	森賀俊典
取締役	山縣富士雄	執行役員	長谷川浩
常勤監査役	根岸保弘	執行役員	塩道行正
監査役	宮本光晴		
監査役	大川邦夫		
監査役	染谷良		

東洋鋼鋳グループ

国内 鋼鋳商事株式会社
 鋼鋳工業株式会社
 KYテクノロジー株式会社
 東洋パックス株式会社
 共同海運株式会社
 下松運輸株式会社
 東洋パートナー株式会社

海外 TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD. (マレーシア)
 上海東洋鋼鋳商貿有限公司(中国)
 湖南東洋利徳材料科技有限公司(中国)
 江蘇東洋鋼鋳新材料科技有限公司(中国)

株式の状況

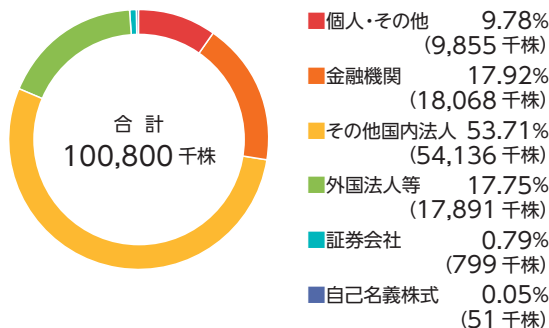
発行可能株式総数 403,200,000株
 発行済株式の総数 100,800,000株
 株主数 2,960名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋製罐グループホールディングス株式会社	47,885	47.53
株式会社三井住友銀行	2,980	2.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,892	2.87
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,831	2.81
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,110	2.09
公益財団法人 東洋食品研究所	2,055	2.04
株式会社淀川製鋼所	1,429	1.42
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	1,373	1.36
株式会社山口銀行	1,316	1.31
新日鐵住金株式会社	1,200	1.19

(注) 1. 持株比率は自己株式を除いて計算しております。
 2. 千株未満は切り捨て、小数点以下第3位は四捨五入しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先) (インターネット) (ホームページURL)	☎ 0120-782-031 http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告方法	電子公告 公告掲載URL http://www.toyokohan.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

お問合せ

証券口座で株式を保有している株主さま	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
特別口座で株式を保有している株主さま	住所変更、買取請求その他お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三井住友信託銀行株式会社)にお問合せください。

東洋鋼鋳株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
電話 (03) 5211-6211 (代表)
ホームページURL tkworks.jp



本冊子は環境保全のため
植物油インキで印刷しています。



ホームページのご案内

コーポレートサイト



当社のホームページでは、投資家の皆さま向けのIR情報をはじめ、最新のニュースをお知らせする「What's New」、当社の製品を紹介する「身近な東洋鋼鋳」など、さまざまな情報を掲載しております。

tkworks.jp

IRサイト



IRサイトでは適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種IR関連資料やIRトピックス、株価情報など最新の情報を提供しております。

<http://www.toyokohan.co.jp/ja/ir/index.html>